

6.1 カリキュラムポリシー（教育課程編成方針）

福山平成大学

福山平成大学では「全人教育」「人間と自然を尊ぶ教育」「心情と愛の教育」「知行合一の教育」を教育理念とし、福山平成大学ディプロマ・ポリシーを踏まえ、豊かな教養と高い人間性を身につけた有為な人材の育成を目的として教育課程を編成します。

教育課程の編成

- 一般教育科目においては「自立的」「主体的」な学習態度を身につけ、学生生活を実りあるものとするための「初年次教育科目」、国際的視野を広げ、豊かな人間性を養うための多様な「教養基礎科目」、数理・データサイエンス・AI を体系的に学び、これらを日常の生活や学業で活用することができる能力を獲得するための「数理・データサイエンス・AI 科目」、異なる文化への理解を深め、外国語で意志を通じ合える能力を身につけることができるよう「外国語科目」をそれぞれ配置します。
- 各学部・学科の教育課程においては、各学部・学科のディプロマ・ポリシーに基づき、専門分野の確かな知識と応用的な技能を段階的かつ体系的に学べるよう「専門教育科目」を配置します。
- 各学部・各学科の専門的な学修の集大成として、「専門演習」「ゼミナール」「卒業研究」等を配置します。
- 各科目において充分な学修時間を確保し、客観的評価基準に基づく成績評価を行います。

経営学部 経営学科

経営学科では、豊かな人間性にあふれ、考え方の異なる人たちとも協調して、時代の要請する企業経営上の、あるいは地域が直面している課題の解決に取り組み、地域の発展に貢献できるビジネスパーソンや産業人等の人材を育成することを目的とする科目を配置します。

教育課程の編成

経営学科ディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の教育課程を編成します。

- 社会人として必要な豊かな人間性と社会性を育むため、1年次では多様な教養教育科目を学びます。さらに、2年次、3年次の専門教育科目にも上記関係科目を組み込み、継続した教育から実践力を身につけます。
- ビジネスパーソンや産業人として活躍するために必要な専門教育科目は多岐にわたります。こうした専門教育科目を、科目間および基礎的科目と応用科目の関連性から専門領域別に整理して、自らの興味と関心に応じて学修を深めます。
- 現代のビジネスパーソンや産業人は、問題を発見し解決する能力やプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力が求められるようになっています。そこで、そのために役立つ実習科目や演習科目、フィールドワーク、卒業論文等もカリキュラムの重要な柱と位置づけて学修します。

福祉健康学部 福祉学科

福祉学科では、社会福祉の根底にある理念や哲学（価値、態度）、社会福祉の政策・制度論（知識）、および援助方法（技能）に関する科目と、人間力（知力、実践力、気力、体力、コミュニケーション力）を高め、社会で活躍しうる職業人を育成することを目的とする科目を配置します。

また、実習・演習科目を重視し、1年次生から4年次生まで系統的に実習できるように科目を配置し、多様な社会福祉実践現場で実習することにより、必要な知識、態度、技能を身につけます。

教育課程の編成

福祉学科ディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の教育課程を編成します。

1. 福祉に関する十分な知識をもとに自らの進路選択ができるよう、福祉入門科目群を置きます。
2. 社会福祉士国家試験受験資格を取得できるよう、ソーシャルワーク専門科目群を置きます。
3. 介護福祉士国家試験受験資格を取得できるよう、ケアワーク専門科目群を置きます。
4. 福祉に関する理解をより深めるために、応用専門科目群を置きます。
5. 高度な専門性を身につけ、実践力を高めるために、高度専門科目群を置きます。
6. 少人数教育を重視し、基礎から研究までの連続性を確保するために、ゼミナール科目群を置きます。

福祉健康学部 こども学科

こども学科では、ディプロマ・ポリシーで設定されている資質・能力を備えた保育者・教育者を育成することを目的として、以下の4領域にわたって科目を配置します。

- A. こども学基盤科目（基盤科目）
- B. 保育・教育の理論に関する科目（理論科目）
- C. 保育・教育の内容・方法・技術に関する科目（内容・方法・技術科目）
- D. 保育・教育の実践に関する科目（実践科目）

各自の志望するキャリアに応じて所定の科目を履修し単位を修得することによって、保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得することができます。

教育課程の編成

こども学科ディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の教育課程を編成します。

1. キャリアを模索する（1年次）
将来のキャリアを模索することができるように、一般教育科目および基盤科目を中心に編成し、地域・社会における保育・教育現場を体験する機会を提供します。
2. キャリアを選択する（2年次）
興味・関心・将来構想に基づいてキャリアを選択し、実践のための知識と技能を獲得することができるように、理論科目および内容・方法・技術科目を中心に編成し、保育・教育現場の体験を積み重ねる機会を提供します。
3. キャリアを実感する（3年次）
志望するキャリアを実感し、将来構想を具体化することができるように、内容・方法・技術科目および実践科目を中心に編成し、保育実習・教育実習の機会を提供します。
4. キャリアを実現する（4年次）
キャリアを実現することができるように、4年間の学修を振り返り、保育者・教育者として最小限必要とされる資質・能力を身につけることができたかどうかを確認するための科目を中心に編成し、さらなる学修に励む機会を提供します。

福祉健康学部 健康スポーツ科学科

健康スポーツ科学科では、「健康」、「スポーツ」、「教職」という3つの基幹科目の系統性を持ち、課題解決能力を持ったインテグリティの高い人材を育成することを目的とする科目を配置します。

教育課程の編成

健康スポーツ科学科ディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の教育課程を編成します。

1. (1年次) 実践からのスポーツ再発見 (ギャップの確認)
2. (2年次) 実践と理論のスパイラル省察 (問題や課題を自覚しながら工夫・努力する演習群の配置)
3. (3年次) 問題・課題解決への専門的アプローチ (ゼミ色を活かした課題解決への取り組み)
4. (4年次) 問題・課題解決に向けた取り組み (卒業論文作成過程を軸にした解決策の提案)

看護学部 看護学科

看護学科では、高い倫理観に裏づけされた感性を持ち、人間と環境を愛し、看護学の発展、国民の健康増進及び社会福祉に貢献しうる人材を育成することを目的とする科目を配置します。

教育課程の編成

看護学科ディプロマ・ポリシーを踏まえ、以下の教育課程を編成します。

1. 看護を実践するための基本となる能力、看護ケアの展開能力を修得する科目を設置します。
2. 看護実践能力を修得するための科目を配置します。
3. 保健師教育、教職課程は選択制とします。
4. 主体的な学び、継続的に看護を探求することができる能力を修得できる科目を設置します。

大学院 経営学研究科

経営学研究科は、あらゆる組織が直面する「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の経営資源についてのマネジメント上の課題を研究領域としています。そして、そこでは、研究者の理論的知見と職業人の持つ現実とが交錯します。さらに、学部から直接進学した学生や留学生による、新鮮かつグローバルな視点により、世代や国を超えた議論が期待できます。

経営学研究科では、これらの結果から得られた知識が、修了生によって現場に還元されることを意識して教育に取り組み、以下の方針で教育課程を編成しています。

1. 経営学研究科で提供される授業科目は、「組織・経営」「会計」「経営情報」の3分野から成ります。
2. 指導教員の助言のもとで、自らの研究テーマに合致した科目を選択して履修することができます。
3. 研究指導では、主指導1名、副指導2名の教員による共同指導体制の下で、修士論文の作成に向けて指導を実施します。

大学院 スポーツ健康科学研究科

スポーツ健康科学研究科では、健康とスポーツ分野に関する過去と現在の学問的系譜を理解し、次世代に向けての可能性を示唆できる高度専門職業人の育成を目的に、次の方針を示し、教育課程を編成します。

1. 健康とスポーツに関する広範で多様な知識を背景に、応用的・発展的な思考の獲得を目指します。
2. 各講義や演習を通じて、既習知識の活用能力、批判的・論理的思考能力、課題探求・課題解決能力、表現・コミュニケーション能力を備えた健康・スポーツの指導的な人材を育成します。
3. 少人数教育による双方向授業や実験・調査・事例研究などを組み入れ、実践的で柔軟な授業を実施します。

大学院 看護学研究科

看護学研究科では、人間の尊厳とアドボカシー (advocacy) の志向に根ざし、看護活動の高度化・多様化による看護の諸問題を考察できる研究的視点をもつ優れた人材を育成するために、以下を柱として教育課程を編成しています。

1. 看護管理・教育学領域：看護専門職として根拠に基づく看護実践を行い、継続した研究と生涯教育を実践すると同時に、医療・教育現場でリーダーシップを発揮し、問題解決能力を有する看護実践者・看護管理者・看護教育者を育成します。
2. 地域健康看護学領域：看護専門職として根拠に基づく地域の看護実践を行い、継続した研究と生涯教育を実践すると同時に、生活を視野に入れた地域住民の心身の健康づくりに寄与できるよう、地域健康看護学を身につけた看護実践者を育成します。

助産学専攻科

助産学専攻科のディプロマ・ポリシーを達成するために、助産学基礎科目・助産学実践科目・助産学関連科目でカリキュラムを編成しています。また、助産師に必要な基礎的実践能力を養うために、講義と演習・技術トレーニング、助産学実習を段階的に配置し、以下を柱として教育課程を編成しています。

1. 女性の性と生殖に焦点を当てた助産の基礎を学ぶ科目を設置している。
2. 生涯にわたる女性の健康支援のための方法やリプロダクティブ・ヘルスについて学ぶ科目を設置している。
3. 助産の実践に必要な基本的技術を修得し、実践力を高めるための実習科目を設置している。
4. 主体的に学び、助産学の発展に寄与する能力を修得できる科目を設置している。